安全 すてきな カーライフのすごし方

セーフティカーライフ 2015-2016

一般社団法人 日本自動車工業会

JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

一般社団法人　日本自動車工業会

〒105-0012　東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館

＊本冊子に関するお問い合わせは広報室へ

Tel.03（5405）6119　http://www.jama.or.jp/

No.44 2015.10

より安全で快適なカーライフをお過ごしいただくために、かならず取扱い説明書をお読みください。
日本自動車工業会ホームページ上の「安全運転講座」もあわせてご覧ください。

http://www.anzen-unten.com

編集：株式会社ピーツーカンパニー

よりよい環境のために
エコドライブ
10 のすすめ

1. ふんわりアクセル『e スタート』
穏やかにアクセルを踏んで発進しましょう
（最初の５秒で時速 20 ｋｍが目安）。

2. 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
交通状況に応じて速度変化の少ない運転を心がけましょう。

3. 減速時は早目にアクセルを離そう
信号で停止するときは、早目にアクセルから足を離し、エンジンブレーキを活用しましょう。

4. エアコンの使用は適切に
暖房のみ必要なときは、エアコンスイッチを OFF にしましょう。冷房が必要なときは、冷やし過ぎないようにしましょう。

5. ムダなアイドリングはやめよう
駐停車の際は、アイドリングはやめましょう。また、エンジンをかけたらすぐに出発しましょう。

6. 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
予め道路交通情報や地図・カーナビで行き先やルートを確認し、余裕をもって出発しましょう。

7. タイヤの空気圧から始める点検・整備
タイヤの空気圧が適正値より不足すると燃費が悪化するので、空気圧チェックを習慣づけましょう。

8. 不要な荷物はおろそう
燃費は、荷物の重さに大きく影響されるので、運ぶ必要のない荷物は車から降ろしましょう。

9. 走行の妨げとなる駐車はやめよう
迷惑駐車は、渋滞をもたらすだけでなく、交通事故の原因にもなります。

10. 自分の燃費を把握しよう
日々の燃費を把握すると、エコドライブ効果が実感できます。

進化を続けるクルマとクルマ社会。
でも、ちょっとした不注意や誤解から
思わぬ危険を招いてしまうことも少なくありません。
この冊子では、そうした事故を防ぐために
特に覚えておきたいポイントを
わかりやすく説明しています。
あなたのカーライフに、ぜひ、お役立てください。

〔目次〕　〔ページ〕

はさみ込み事故にご注意を

ドアやトランクの開閉、パワーウィンドウやアームレストの操作には気をつけて。
指や手、首などがはさまれる事故が起こっています。
便利なパワーウィンドウやスライドドア、オートクロージャーも場合によっては危険につながることがあります。それぞれの構造・特性を理解して使用しましょう。

パワーウィンドウの操作は大人が安全を確かめてから

パワーウィンドウを操作するときは、子どもが窓から顔や手を出していないか、大人がきちんと安全を確かめてから行なってください。子どもにはチャイルドシートを正しく着用させ、パワーウィンドウのスイッチをいたずらできないように、ロック機構をオンにしておきましょう。

★パワーウィンドウによる事故の半数以上が、6歳未満の幼児となっています。

スライドドアを開け閉めするときに指などをはさむことも…

乗り降りがラクなスライドドアですが、開け閉めする時に、うっかり指などをはさんでしまうこともあります。あわてずに十分注意して開け閉めするようにしましょう。

★チャイルドシートを正しく着用させることは、はさみ込み事故から子どもを守るのに効果的です。

オートクロージャーを知らない同乗者には気配りを忘れずに

スライドドアやバックドア、トランクなどがきちっと閉まっていない場合、自動的に閉めきる便利なオートクロージャー。
でも、この機能を知らない同乗者が指などをはさむケースがあります。一言、注意を呼びかけましょう。

★チャイルドシートを正しく着用させることは、はさみ込み事故から子どもを守るのに効果的です。

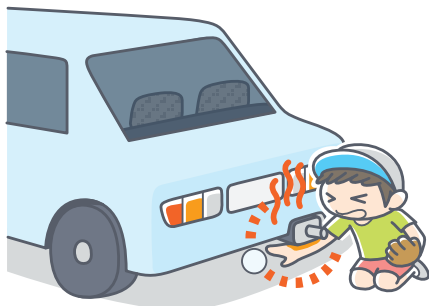
子どもから目を離しちゃダメ！

子どもを乗せているときは思いもかけない事故が起こりがち。こまやかな気配りが、常に必要です。

クルマの中に置きざりにしない

クルマの中に子どもを置き去りにするのは、絶対にやめましょう。特に暑い日など、クルマの中は50℃以上にもなります。たとえエアコンをかけていてもエンストなどでエアコンが停止し、死亡事故につながることもあります。

マフラーでやけどにご注意を！

クルマの下に入り込んだボールなどを取ろうとした際、マフラーに触れて思わぬやけどをする事故が起こっています。駐車しているクルマには充分注意しましょう。

窓やサンルーフから顔や手を出させない

走行中、クルマの窓やサンルーフから顔や手を出すことが、どんなに危険なことか幼い子どもには分かりません。大人が厳しく注意し、絶対に止めさせましょう。

クルマから出るときはキーを持って子どもを連れて

クルマの中に子どもだけを残すのは、大変危険です。子どもがドアロックやリモコンキーをいじって、誤ってドアをロックしてしまう事があります。必ずエンジンキーを持って、子どもといっしょに出るようにしましょう。

2014年7～8月
車内に子どもを残しキーの閉じ込みをした件数　438件　JAF調べ

もしもの時の危機管理

万が一事故にあったときは、
正しい知識にもとづいて、冷静に
行動しましょう。

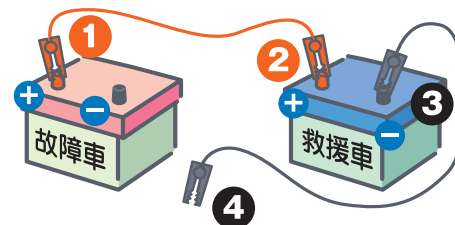
もしも 走行中に警告灯が点いてしまったら

走行中に警告灯が点灯した場合は、安全な場所に停車し、「取扱説明書」で警告内容を確認して適切な対処をしましょう。

もしも 走行中にエンジンが止まってしまったら

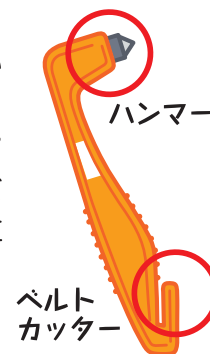
走行中に警告灯が全て点灯した場合には、エンジンが停止したことが考えられます。その場合、パワーステアリングやブレーキブースターによる補助がなくなってしまうためハンドル操作やブレーキ操作が非常に重くなります。あわてずにクルマを安全な場所に移動させて自動車販売店などに連絡しましょう。

もしも バッテリーが上がってしまったら

そのときのためにブースターケーブルを用意しておきましょう。近くのクルマに救援を求め、イラストの手順通り正しく接続します。まちがって接続すると発火したり、バッテリーが爆発することもあり、危険です。

つなぐ順番は 1 2 3 4
はずす順番は 4 3 2 1
4 は故障車のエンジン本体または車体につなぐ

★一部のハイブリッド車や電気自動車は、取り扱いが異なります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

もしも 水中に落ちてしまったら

まず落ちついてシートベルトをはずし、窓を開け、脱出します。シートベルトがロックして外れない場合はシートベルトカッターなどで切断します。また窓が開かない場合は、水面より上にあるドアガラスまたはリヤガラスを緊急脱出ハンマーなどで割って脱出します。ガラスが割れない場合は車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ち、ドアを開け、脱出します。

★①フロントガラスは、合わせガラスのため割ることはできません。
②万一に備えて緊急脱出ハンマー、シートベルトカッターなどをドライバーの手が確実に届く場所に用意しておきましょう。緊急脱出ハンマーは、自動車販売店などで購入できます。

こんなことにも気をつけて！

クルマのメカニズムは複雑なもの。自己流の判断は、大変危険です。日頃から取扱説明書をよく読むようにしましょう。

ＥＶ・ＰＨＶを充電するときは

電気自動車、プラグインハイブリッド車を充電するときは、専用の充電器およびコンセントを使用しましょう。延長コードなどは火災の原因となりますので、絶対に使わないでください。また、大雨や落雷の可能性がある日などは、感電のおそれがあるので屋外で充電を行わないでください。

充電器・充電中の車両および給電器からの電磁波が、ペースメーカーなどの医療機器の動作に影響を与えるおそれがあります。急速充電器は使用せず、普通充電を行なう際は医療電気機器製造業者に確認してください。

診断機接続用のコネクターにはご注意を！

診断機接続用のコネクターには、後付け用品を取り付けないでください。バッテリーがあがったり、警告灯が点灯するなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

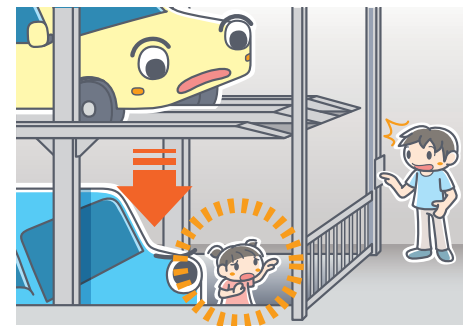
オーバーヒートの処置はこのように

安全な場所に停車し、エンジンをかけたまま、ボンネットを開け冷まします。ただし冷却ファンが止まっているときは、エンジンを切って、自動車販売店などに連絡しましょう。

あなたのクルマは気づかれていますか？

最近のクルマは非常に静かなので、歩行者や自転車を運転している方があなたのクルマの接近に気づかない場合があります。スピードを落として、歩行者や自転車との間隔を十分にとり、注意深く運転してください。

機械式立体駐車場にご注意を！

機械式立体駐車場では、事故が生じた場合には重大事故になるおそれがあります。駐車装置を操作する際は、操作説明書を確認するなど、細心の注意を払ってご利用ください。

徹底捜査！車両火災の原因は？

新聞やテレビで車両火災の報道があります。
自動車は設計、製造段階で燃えにくい材質を努めて使用するようにしていますが、可燃性の材質も一部使用されています。
あなたのクルマに車両火災の危険がないかさっそくチェックしてみましょう。

浸水・冠水してしまったら火災の危険！

台風や津波、集中豪雨などで浸水・冠水したクルマはバッテリーの端子（マイナス側）を外し、ただちにロードサービスや自動車販売店などに連絡しましょう。また、エンジンをかけるとエンジンがこわれるおそれがあります。やむを得ず移動しなければいけない時は押して移動しましょう。

車中仮眠はエンジンを切ってから

エンジンをかけたままでの車中仮眠は、燃料のムダ使いであるばかりでなく騒音公害にもなります。
睡眠中にあやまってアクセルを踏み込み、エンジンが高回転を続けて異常に加熱し車両火災を引き起こすことがあります。
また排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒や酸欠を起こす危険もあります。絶対にやめましょう。

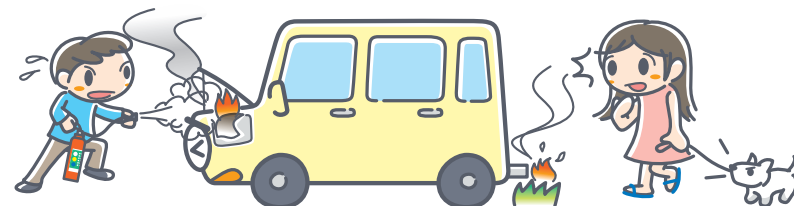
エンジンオイルのメンテナンスを忘れずに！

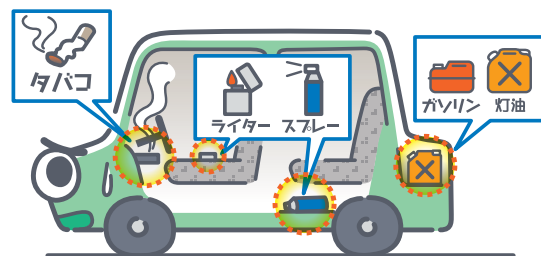
エンジンオイルのメンテナンスを怠ると、エンジンオイルの劣化による潤滑不良でエンジン破損を招き、火災が発生することがあります。なお、エンジンオイル交換時等にオイルをこぼした場合には、確実にふき取りましょう。
また、エンジンオイルフィルターの取付けを誤るとオイルが漏れ、車両火災に至ることがあるので、注意しましょう。

バッテリー交換や後付け電装品にご注意を！

バッテリー交換を行なう場合は、車両に合った型式のバッテリーを選定し、固定金具や端子取付け用ナットは工具を使ってしっかりと固定しましょう。ご自身で取り付けた場合、ＨＩＤヘッドランプ、フォグランプ、ナビ・オーディオなどの配線、ヒューズは適切ですか。間違った電気配線から車両火災になることがあるので、自動車販売店などで確認してもらいましょう。

燃えやすいものに注意しましょう

エンジンルームに可燃物（布など）を置き忘れると、発火の原因になります。また、走行後排気管が熱いまま枯れ草などの上に駐車したり、エンジンをかけたままにすると、マフラーなどの熱で出火する危険があります。

灰皿、ライター、火の用心

吸い殻や燃えやすいもので灰皿がいっぱいになっていないか、周りに燃えやすいものを置いていないか、シートの下やその付近にライターが落ちていないか、センターコンソールやグローブボックスに放置されていないか、確認しましょう。
日光が当たって車内が高温になると、ライターやスプレー缶などが破裂・発火することもあります。さらに、車内に可燃性のもの（ガソリンや灯油）などを積んだままにしておいたりすると自然発火の原因になります。

飲みものやケミカル剤にご注意を

電装品に飲みものをこぼしたり、周辺でクリーナーや潤滑剤等のケミカル剤を使用すると電装品から発火することがありますので、確実にふき取り、自動車販売店などで確認してもらいましょう。

4WD 車のタイヤで火災、その原因は

4WD 車の場合、フロントとリヤのタイヤサイズ、形状、銘柄、トレッドパターン、摩耗状態や空気圧が異なると、最悪の場合、駆動系部品の過熱による火災の危険があります。4WD 車は 4 輪ともメーカー指定のサイズ、形状のものを装着しましょう。
詳しくは各メーカーの取扱説明書をお読みください。

シートベルトは安全の基本

もしもクルマが衝突したとき、乗っている人の身をしっかりと守ってくれていちばん頼りになる安全装置、それがシートベルト。
運転席・助手席はもちろん後ろの席でも忘れずに着用を。
すてきなカーライフの合言葉は「乗ったら締めよう」です。

安全運転は正しい姿勢から

肩ベルトは鎖骨の上を通し、首に掛からないようにします。高さ調整ができる場合は、高さを調整します。

ヘッドレストの真ん中を耳の高さに合わせます。

ハンドルの上を握ったときにひじがわずかに曲がるように背もたれを調整します。

高さ調整付ハンドルは、メーター類が見える高さに調整します。

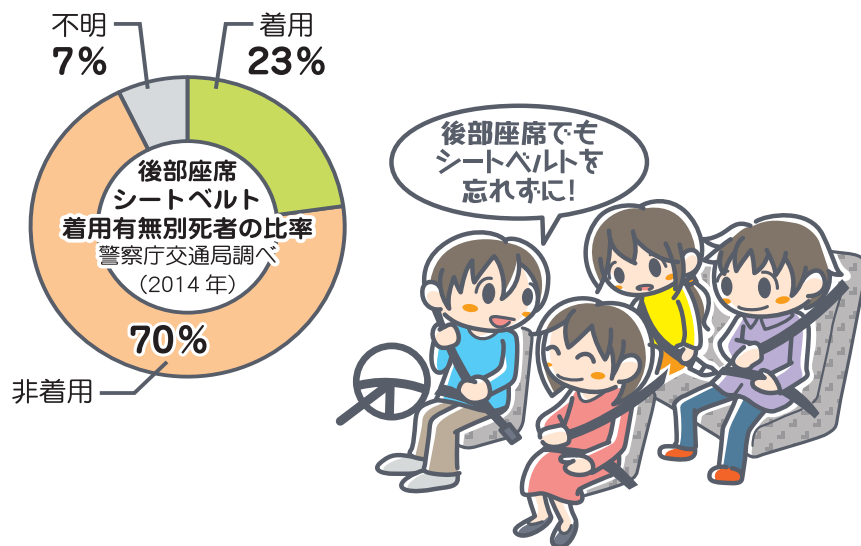
腰ベルトは腹部にかからないようにし、腰骨を押さえる位置にします。

シートに深く腰かけ、背もたれから背中と腰が離れないように座ります。

ペダルを踏み込んだ時にひざがわずかに曲がる位置にシートを合わせます。

ベルトにねじれがないようにバックルを留め、肩ベルトを引き上げて腰ベルトのたるみをとります。

後ろの席でも忘れずにシートベルト

後部座席では、死者数の 70%がシートベルト非着用となっています。忘れずにしっかりとシートベルトを着用しましょう！

2008 年 6 月 1 日から改正道路交通法により、後部座席のシートベルト着用が義務化されました。

妊娠中のシートベルト着用について

妊娠中もシートベルトを着用しましょう。ただし着用にあたっては、かかりつけの医師に相談し、その注意に従ってください。着用の際は、①腰ベルトを腰骨の低い位置にかけ②肩ベルトを肩の中央から胸にかけ、ベルトがお腹にかからないようにします。

シートベルトで遊ばせない

子どもがシートベルトで遊ぶと思わぬ事故を引き起こす危険性があります。特に ALR が装着されている場合、ベルトを最後まで引き出すと、ALR が作動してベルトがゆるめられなくなります。ご注意ください。

ALR（オートマティック・ロッキング・リトラクター）

ALRはチャイルドシートを確実に固定するために工夫された機構です。ベルトを最後まで引き出すとロック機能が作動し、ベルトを戻した位置でロックし、最後まで戻さないと再び引き出すことができなくなります。

チャイルドシートは大人の責任

小さな子どもを乗せるときはチャイルドシートを使用してください。たとえ子どもがいやがってもチャイルドシートの使用に慣れさせるようにしましょう。
また、チャイルドシートを購入するときは、クルマのシートにフィットするものを選び、必ず後ろの席に取りつけてください。

2015 年チャイルドシート使用率　63%
警察庁／ＪＡＦ調べ

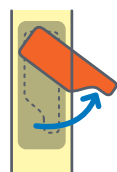
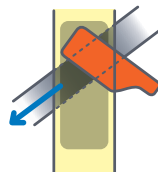
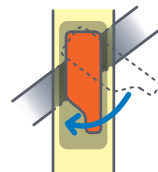
からだに合ったものを選びましょう

子どもの体格に合うように、いろいろなタイプのチャイルドシートが用意されています。成長に応じて、いちばん適したものを選びましょう。また、装着の際には、肩ベルトが子どものからだにフィットしているか、きちんと確認しましょう。

適正の目安

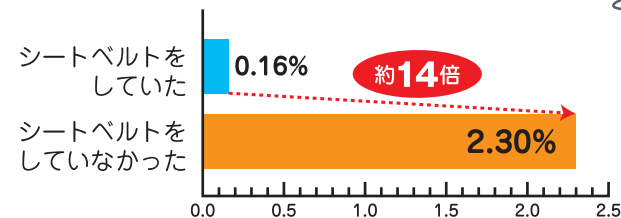
乳児用	幼児用	学童用
参考体重：10kg 未満 参考身長：70cm 以下 参考年齢：生後0～1歳 くらいの子ども用	参考体重：9～18kg 参考身長：65～100cm 参考年齢：1～4歳 くらいの子ども用	参考体重：15～36kg 参考身長：95～135cm程度 参考年齢：4～10歳程度 くらいの子ども用

ＬＯＤ（ロック・オフ・デバイス）

ＬＯＤはシートベルトを挟んでチャイルドシートを固定するためのクリップです。チャイルドシートの取扱説明書に従って、確実にチャイルドシートを固定してください。

①固定クリップを開きます　②クリップ部分にベルトを通します　③クリップを戻し固定します

SRS エアバッグは安全の補助装置

シートベルトの着用なしでは、ＳＲＳエアバッグが作動しても適切な効果は得られません。
ＳＲＳエアバッグ装備車に乗るときも、かならずシートベルトを締めましょう。

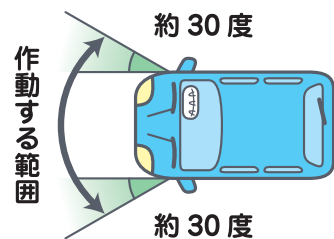
がんばるぞー！

SRS エアバッグが開いた自動車事故の死亡率
(2014年／警察庁調べ)

 SRS エアバッグの SRS は、“Supplemental Restraint System” の略称で「補助拘束装置」という意味です。

シートベルトを締めて正しい姿勢で！

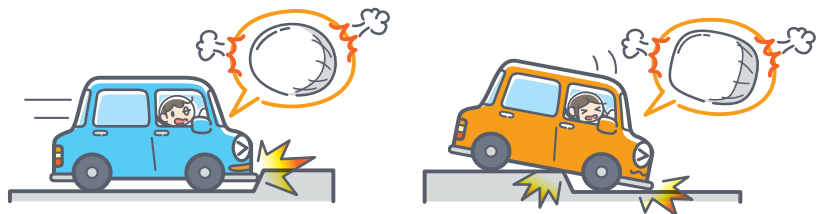
顔や胸をハンドルに近づけすぎるとエアバッグが作動した場合、強い衝撃を受け、危険です。
つねに正しい姿勢で運転するようにしましょう。

なぜだ!? エアバッグが開かないぞ

エアバッグは、変形や移動しない固定された壁に、正面から約20～30ｋｍ／ｈ以上のスピードで衝突したとき位の強い衝撃により、作動するようにつくられています。この条件から外れた場合、作動しません。過信は禁物です。

エアバッグが作動しないことがある場合

- 衝突の方向がクルマの中心からはずれたとき。
- ガードレールや壁に、ななめに衝突したとき。
- 電柱や立ち木などに衝突したとき。
- トラックの荷台の下へ、もぐり込んだとき。
- 追突されたとき。
- 横転や転ぷくしたとき。

なぜだ!? エアバッグが開いたぞ

走行中にクルマの下部を激しくぶつけたときなど、クルマの損傷はそれほどでもないのにエアバッグが作動する場合があります。

だめっ!! 格納部のまわりに物を置いては

”SRS AIRBAG”と表示のあるダッシュボード上には芳香剤やスマホホルダーなど物を置かないよう注意してください。エアバッグが作動した場合、それらの物がはじけ飛んで危険です。

先進安全装備の機能を知りましょう

最近は、衝突被害軽減ブレーキ以外にも、ＡＴ誤発進抑制、サイド・リヤモニター、登坂路後退抑制、車線逸脱警報などの、危険認知や運転支援のための装備が登場しています。装備には作動条件や限界がありますので、取扱説明書などで機能を理解して、過信せずに安全運転を心がけましょう。

衝突被害軽減ブレーキを過信しないで

衝突被害軽減ブレーキは、自動車が障害物を感知して警告やブレーキの補助操作を行いますが、安全運転が前提となります。システムを過信しないようにしましょう。

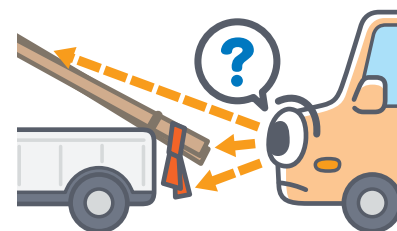
気象条件・路面状態等によっては、システムが適切に作動しなかったり、予期せず作動する場合があります。

車種によって、作動する速度条件等が異なりますので、必ず取扱説明書を確認してください。

このようなときには、衝突被害軽減ブレーキが作動しない場合があります

飛び出しや割り込み

雨など天候・路面状況

感知しにくい形状のもの

リヤビューカメラ等は正しく使いましょう

ナビ画面等に車両周辺映像を表示し、運転をサポートするカメラシステムには、後退時に後方視界を表示するものと、四方のカメラ映像から見下ろす視点の映像を再現したものがあります。
表示される映像の範囲には限界があり、気象条件によって映し出される映像が見にくい場合があります。
必ず目視やミラー等で周囲の安全を直接確認してください。

クルマの周辺を確認できるカメラシステムの場合

四方のカメラ映像から、見下ろす視点の映像を再現します

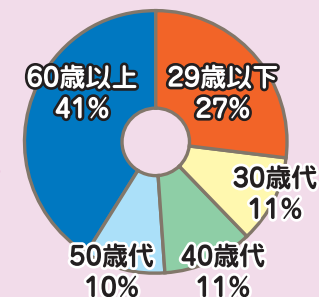
クルマの後方を確認できるリヤビューカメラの場合

後方のカメラで、クルマの後ろを映像で表示します

シフト・ペダル操作について

AT車は、うっかりミスが大事故につながることがあります。

年齢別アクセルとブレーキの踏み間違え交通事故の割合

（2014年　警察庁調べ）

ブレーキとアクセルの踏みまちがいにご注意を

運転に適した靴をはき、常にブレーキペダルとアクセルペダルの位置を確認し、余裕をもった運転を心がけましょう。
駐車場でバックするときなど、後ろをふり向いた姿勢により足位置がずれ、ブレーキペダルとアクセルペダルの踏みまちがいをすることがあります。発進前にブレーキペダルとアクセルペダルの位置を確認しましょう。

運転に適さない靴・履物は避けましょう！

 クルマを誘導してもらう場合､クルマを誘導する人にはクルマの横に立ってもらい､うっかりミスによる事故に巻き込まないようにしましょう。

 踏みまちがいＡＴ急発進防止装置が装備されているクルマも、条件によって作動しないことがあります。装置を過信せず、ペダルの位置を十分確認しましょう。

エンジンをかけるときや発進するときにはご注意を！

エンジンをかける(*)ときは、パーキングブレーキがかかっており、セレクターレバーが「P」であることを確認しましょう。

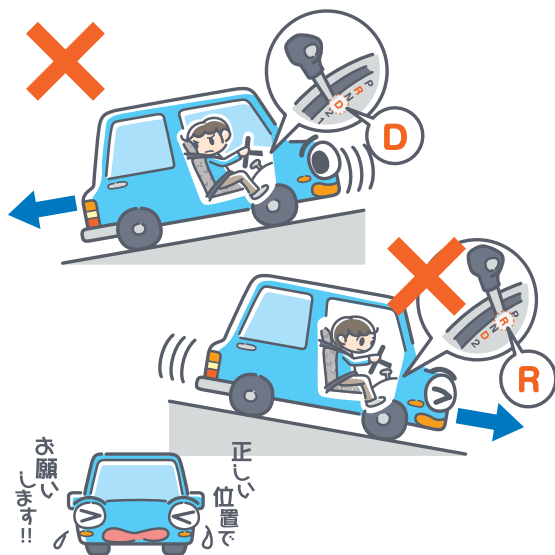
発進時セレクターレバーを操作するときは、ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。そのとき、前進「D」と後退「R」をまちがえないよう、目で確認しましょう。

(*)電気自動車やハイブリッド車は、「パワー」または「レディーオン」

セレクターレバーは正しい位置で

セレクターレバーは走行状態に合った正しい位置で使用してください。

坂道などで、前進「D」にしたまま惰性で後退したり、後退「R」にしたまま惰性で前進しないでください。

エンストしてブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アイドリングストップの際は

アイドリングストップによるエンジン停止中はブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

また、エンジンが自動的に始動するため、運転席から離れないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

いつでも行けます!

やむを得ず運転席から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけてセレクターレバーを「P」にしてエンジンスイッチをオフにしてください。

アイドリングストップ装置とは

車両を停車させると自動的にエンジンを停止させ、再び走行するときは自動的にエンジンを始動することで、アイドリングによる排気ガスの発生や騒音を抑制するとともに燃費を向上させます。

なお、アイドリングストップ機能がキャンセルされる条件がありますので、詳しくは取扱説明書をご覧ください。

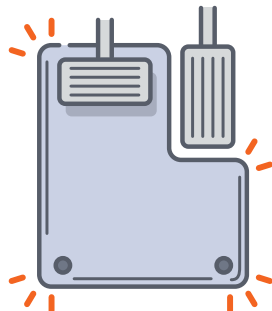
長い下り坂にさしかかったら

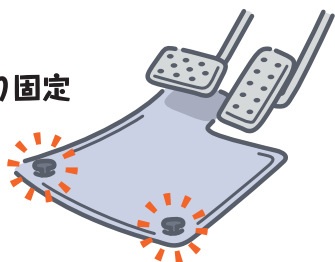
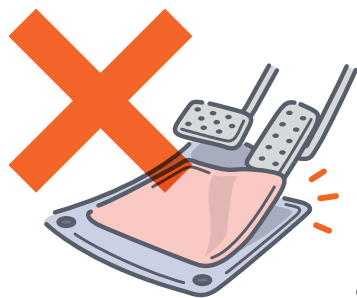
フットブレーキを繰り返し使用すると過熱し、ブレーキの効きが弱くなるおそれがあります。シフトダウンし、エンジンブレーキを使って、ゆっくりおりるのがコツです。

短い坂でもニュートラルに入れたり、エンジンを切ったりしないでください。エンジンを切るとハンドル操作やブレーキ操作が非常に重くなり、危険です。

運転席フロアマットは車に合ったものを正しく使用しましょう

フロアマットはクルマに合ったものを選び、しっかり固定して、使用しましょう。フロアマットを２重３重にすると、使っているうちにずれて上側のマットがアクセルペダルを押してしまうことがあります。また、丸まってペダルの下に入るとブレーキが踏み切れなくなるおそれもあり危険です。フロアマットは１枚だけにしましょう。

ぴったりを選ぼう

重ね敷きはダメ！

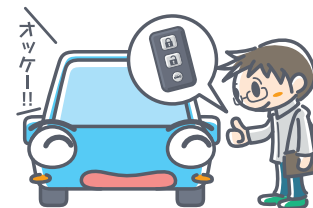
しっかり固定しよう

固定方法などは取扱説明書で確認してください。

マットが重なって
アクセルを押しています！
危険ですね！

段差を乗り越えるときアクセルペダルの踏みすぎにご注意を

段差を乗り越えるときは、クルマの動きを確かめながら、徐々にアクセルを踏みましょう。踏み過ぎに注意しましょう。

べんりな機器で危機を招かないで！

電子キーは肌身離さず

電子キーは車内に放置せずに、運転者が常に所持しましょう。電子キーを車内に放置した状態で電池が切れるとロックがかかり、キーが閉じ込められる場合もあります。電池は定期的に交換しましょう。

運転中は携帯電話を使用しない

運転中の携帯電話の使用が原因と考えられる事故がおきています。運転中ハンズフリー以外の携帯電話を使用することは禁止されています。使用する場合には、安全な場所に停車してから使用するようにしてください。

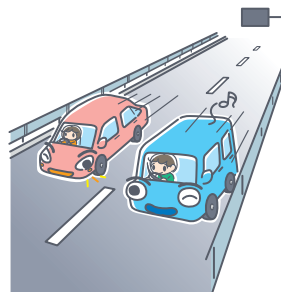
携帯電話使用（取り出し、通話、操作等）による交通事故 1,897 件（2014 年警察庁調べ）

カーナビ脇見運転事故のもと

モニター画面の確認は、あくまで「チラッとすばやく」です。すぐに視線をもどし、前方に注意してください。また、運転中の操作はやめ、きちんと停車して行なうようにしましょう。

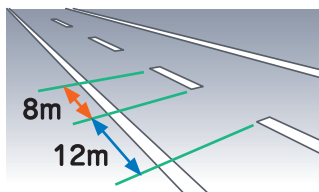
カーナビ画面注視・操作による交通事故 2,231 件（2014 年警察庁調べ）

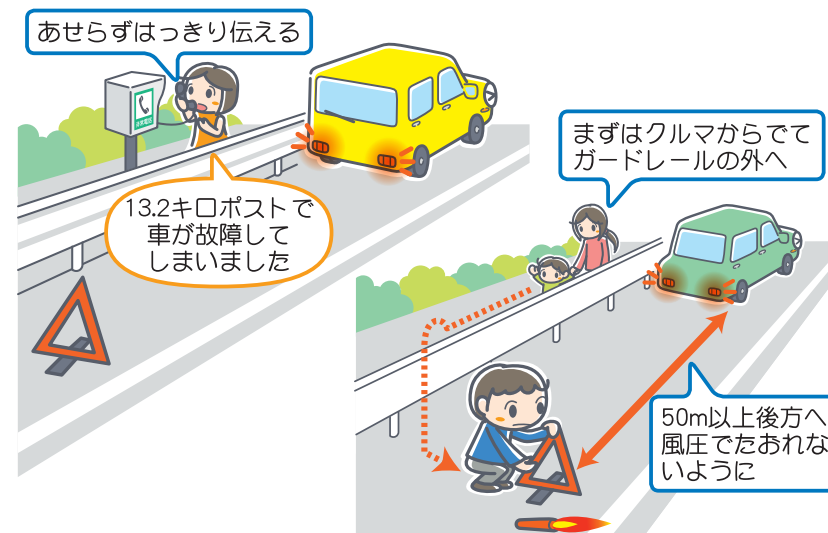
ハイウェイ・ドライブ警報

高速道路での事故は、命に関わる大事故になることが少なくありません。
正しい判断と安全な操作ができるよう、運転に集中することが大切です。

スピードを上げると視野はせまくなります

止まっているときの視野が 150 度位あるのに対し、100km/h のときの視野は 40 度位しかありません。スピードの出し過ぎに気をつけ、よく周囲に注意して運転しましょう。

車間距離は十分に取れていますか

高速道路の上に 12m おきに描かれた長さ 8m の白線がレーンマークです。
前方のクルマとの車間距離が十分に取れているかどうか、目測するときの目安にしてください。

事故や故障が発生したら

事故や故障などでやむを得ず路肩に停車せざるを得ない場合は、ハザードランプ、三角表示板、発炎筒で後続車へ合図をし、全員クルマから降りてガードレールの外など安全な場所へ避難して救援を待ちましょう。

三角表示板は、後方から来るクルマのドライバーが見やすい位置に置きましょう。事故や故障時には、高速道路に設置された**非常電話・110 番・道路緊急ダイヤル＃ 9910** で通報しましょう。

ETC 利用の注意点

ETC カードは確実に挿入（有効期限にも注意！）し､ETC レーン内では十分な車間距離をとって、時速 20km/h 以下に減速して徐行してください。また ETC 車と現金支払い車では速度差があります。料金所を出たら隣のレーンの車に注意しましょう。なお、ETC 車載器には車両情報のセットアップ（登録）が必要です。正しくセットアップ（登録）していない場合、ETC 開閉バーが開かず危険です。しっかりとルールを守って、安全な ETC 利用を心がけましょう。

セルフスタンドの給油に自信がありますか？

セルフスタンドでは静電気による引火や燃料吹きこぼれなどの事故に注意しましょう。
給油の際はエンジンを止め、窓やドアは閉めましょう。
タバコなどの火気は厳禁です！また、携帯電話の使用は給油作業から注意がそれて、吹きこぼれの対応が遅れるなど大変危険です。携帯電話の使用は控えましょう。

静電気に気をつけて！

私たちの体には静電気がたまっています。そのままで給油作業を行うと、静電気の火花がガソリンなどの気化ガスに引火するおそれがあります。給油口をあける前にクルマのボディや給油機の静電気除去シートに触れ、体にたまった静電気を取り除いてください。

- 給油作業は最後まで１人で行い給油機から離れない。
- 給油が終了するまで給油ノズルから手を離さない。

燃料の入れ間違いに注意しましょう

ガソリンエンジン車にはガソリン、ディーゼルエンジン車には軽油。それぞれ正しい燃料を入れましょう。燃料を間違えるとエンジンを壊したり事故の原因になったりします。
たとえば、軽自動車の燃料はガソリンです。間違えて軽油を入れないようにしましょう。給油ノズルの色は、ハイオクガソリンが黄、レギュラーガソリンが赤、軽油が緑、灯油が青です。

燃料によって、それぞれ給油ノズルの色はちがいます。

正しい燃料の種類は取扱説明書で確認してください。
（車検証にも燃料の種類は記載されています）

安全で正しい給油を再確認しましょう

キャップは必ずつまみを持ちゆっくり左に回してください。このとき“シュー”という音がする場合があります。その場合、音が止むまで待ってからキャップを開けてください。音が止まる前に開けると、タンク内との圧力差により気化ガスが吹き出すおそれがあります。ご注意ください。
給油ノズルは確実に給油口へ止まるところまで挿入し、レバー（引き金）をいっぱいに引いて給油します。自動的に止まったら、それ以上の給油はしないでください。給油後は、キャップをしっかりと閉めてください。
また、スタンド内に掲示されている注意事項を守り安全な給油を心がけてください。正常に給油できない場合は、スタンド係員を呼びその指示に従ってください。

点検あれば憂いなし！
〜エンジンルーム編〜

愛車と長くつきあうためにも、日常点検・定期点検は欠かせません。メンテナンスノートの日常点検項目にしたがって、チェックもれがないよう、ひとつひとつ入念に調べてください。
長く使うことで磨耗・劣化する部品は確実に点検・整備する必要があります。その時は自動車販売店などに持って行きましょう。

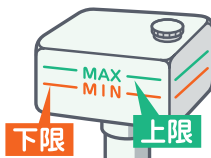
法律によりユーザー保守管理責任が定められています。

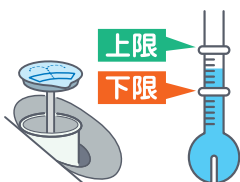
自動車の使用者は、自動車の点検をし、及び必要に応じ整備をすることにより、当該自動車を保安基準に適合するように維持しなければならない。(道路運送車両法　第 47 条)

不正な改造は禁止されています。後付部品の取付けなどは、自動車販売店などに相談しましょう。

福祉車両は、架装部分も忘れずに点検・整備しましょう。

ブレーキ液の量は？

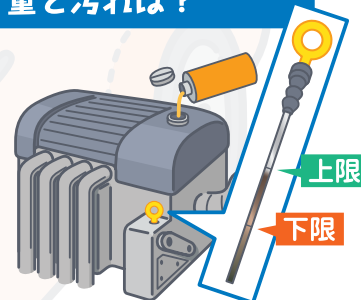
液面が「ＭＩＮ」以下の状態で走行するとブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、すみやかに自動車販売店などで点検を受けてください。

ウォッシャー液の濃度と量は？

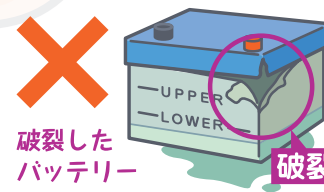
ウォッシャー液がなくなると､フロントガラスの汚れを落とすことができなくなり､前方の視界を確保できなくなりますので､必ず補給してください。

冷却水（LLC）の量は？

冷却水（LLC）の液面が「ＭＩＮ」(下限）より低かったり､長期間交換しないで使用するとエンジンのオーバーヒートにつながるおそれがありますので､必ず補給または交換してください。

置き忘れにご注意！

車両火災の原因になるので、エンジンオイルの確認に使用した布などのエンジンルーム内への置き忘れに注意しましょう！

エンジンオイルの量と汚れは？

エンジンオイルを長期間交換しないで使用したり、オイルの量が目盛りの『L』（下限）より低い状態で使用を続けていると、潤滑不良でエンジン破損を招き、火災が発生することがありますので、指定のオイルを補給または交換してください。

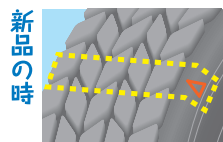
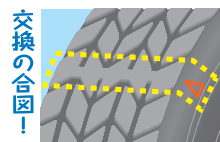
バッテリーの液量は？

バッテリーの液面が「LOWER LEVEL」(下限）より低い状態で使用すると､バッテリーが上がったり破裂するおそれがありますので､必ず補給してください。
※メンテナンスフリーバッテリーは､補給の必要がありません。

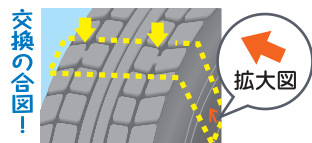
点検あれば憂いなし！ ～ タイヤ編 ～

運転前にタイヤのチェックを

自動車メーカー指定のホイール、タイヤサイズをご使用ください。空気圧や溝の減り具合、傷の有無など、タイヤ状態を運転前にチェックしてください。
特に空気圧は少なくとも月に一度は、タイヤの冷えているときに、タイヤエアゲージで確認しましょう。適正空気圧はタイヤサイズによって異なります。取扱説明書あるいは運転席のドア付近に貼付されているラベルで、確認してください。
また、冬用タイヤは四輪すべてに装着してください。

スリップサインはタイヤ交換のしるし

タイヤの接地面にほられた溝（トレッドパターン）をよく点検してください。溝の深さが 1.6mm 未満になると、スリップサインが現れます。その名の通り、スリップの危険を知らせる合図。このサインが出たら交換してください。

△…スリップサインの位置を示すマーク

タイヤの摩耗は車の制動にも影響します。制動停止距離は路面状態およびタイヤ摩耗状態によって変わります。路面が乾いている時に比べて、路面が濡れている時は停止距離が長くなります。また、タイヤが摩耗することにより停止距離が長くなります。
なお、冬用タイヤには摩耗状態を示すプラットホームが設けられており、プラットホームが露出しているタイヤは冬用タイヤとしては使用できません。

⬆…冬用タイヤのプラットホーム

ゴム製品であるタイヤの耐用年数

タイヤはゴム製品であるため、長期間使用する間に紫外線や気候変化、経時変化によりゴム質の硬化が起きてきます。
亀裂やひび割れ等が現れたタイヤは、スリップサインがでていなくても交換してください。

一般社団法人日本自動車タイヤ協会では、使用開始後 5 年以上経過したタイヤについては継続使用に適しているかどうかの点検を受けること、また外観上使用可能のように見えたとしても製造後 10 年経過したタイヤは新しいタイヤに交換することを推奨しています。スペアタイヤも含め、自動車販売店などで点検とメンテナンスを受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの使用方法

タイヤパンク応急修理キットで応急修理をする場合、タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。抜いてしまうと応急修理が不可能になる場合があります。タイヤパンク応急修理キットは、搭載車両の装着タイヤ専用です。指定サイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

詳しい応急修理の手順は取扱説明書で確認してください。
パンク修理液には有効期限がありますので、期限が切れるまでに交換しましょう。

車載ジャッキの取扱い

タイヤがパンクして応急処置としてスペアタイヤに交換する時や、タイヤチェーンを装着する時など、車体を持ち上げて車輪を浮かせる（＝ジャッキアップする）作業が必要です。
いざというときのために、ドライブに出かける前は忘れずに車載ジャッキの事前点検・確認をしましょう！

1 安全で平らな場所で停車します！

2 ハザードランプを点け、クルマの後方に表示板を出しましょう！車輪止めも忘れずに！

3 ジャッキアップポイントに正しく装着しましょう！

4 ジャッキアップ中は絶対にクルマの下に潜らないでください！

5 持ち上げすぎも危険ですよ！

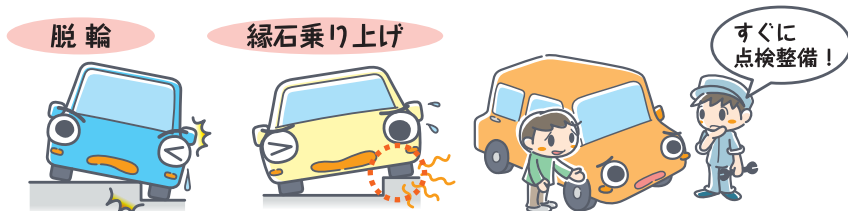
注 安全で平らな場所がないときはロードサービスに電話しましょう

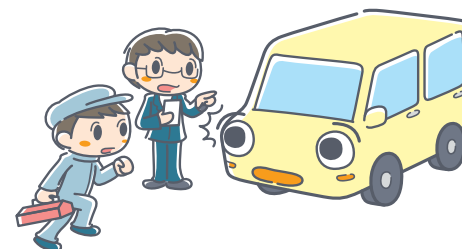
車載ジャッキの具体的な使用方法は、製品によってそれぞれ異なります。
かならず取扱説明書にしたがって正しい使い方をしてください。

脱輪や縁石乗り上げをやってしまったら

特に異常がないように見えても、クルマの足回りやタイヤの側面にダメージを受けていることがあります。ダメージを受けたまま乗り続けると、事故や故障を引き起こします。
タイヤを溝に落としたり、縁石に乗り上げて大きな衝撃を感じたりした場合は、すぐに自動車販売店などで点検整備を受けてください。

脱 輪

縁石乗り上げ

リコール制度について

クルマの構造・装置の不具合による事故を未然に防ぐことを目的として、リコール制度が定められています。

自動車メーカーが責任を持ち点検・修理

【リコール】
同一型式・一定範囲のクルマについて、構造・装置・性能などが安全・公害防止上の規定＝保安基準に適合しなくなるおそれがあり、自動車メーカーが必要と判断した場合、国土交通省に届出するとともにクルマをお持ちのみなさまに連絡し、無料で点検・修理するものです。

【改善対策】
保安基準に関わらず、自動車メーカーが安全確保、公害防止の観点から必要と判断した場合は、国土交通省に届出し、クルマをお持ちのみなさまに連絡し、点検・修理するものです。

【サービスキャンペーン】
商品品質改善等の観点から、自動車メーカーが必要と判断した場合は、国土交通省に通知し、クルマをお持ちのみなさまに連絡し、点検・修理するものです。

リコール等による点検・修理実施にご協力を

リコール等を実施する場合は、自動車販売店などから連絡がありますので、点検・修理の実施にご協力ください。迅速・確実に連絡が届くように、引っ越しなどした場合は、早めに使用者住所等の登録変更手続きをお願いします。その際、自動車販売店にも知らせておけば、さらに確実です。

自動車の運転者が表示するマークについて

つぎのようなマークを見かけたら思いやりの気持ちをもって運転しましょう。

初心者マーク

普通自動車免許を受けていた期間（免許の効力が停止されていた期間を除く）が通算して１年に達しない人です。
<表示義務>

高齢者マーク

（新）
（旧）
※新マークは 2011 年 2 月から導入
※旧マークも当分の間は使用可
年齢が 70 歳以上の人です。
<表示努力義務>

聴覚障害者マーク

政令で定める程度の聴覚障害のあることを理由に免許に条件を付されている人です。
<表示義務>

身体障害者マーク

肢体不自由であることを理由に免許に条件を付されている人です。
<表示努力義務>

マークの表示は普通自動車と軽自動車が対象です。

交通情報のことなら‥日本道路交通情報センター

全国共通ダイヤル	050-3369-6666
全国高速ダイヤル	050-3369-6700
携帯電話の短縮ダイヤル	＃ 8011
電話番号案内ホームページ	http://m.jartic.or.jp/

ハイウェイのことなら‥NEXCO各社

NEXCO 東日本お客さまセンター

（ナビダイヤル）	0570-024-024
（PHS・IP 電話のお客様）	03-5338-7524
E-NEXCO ドライブプラザ	http://www.driveplaza.com/

NEXCO 中日本 お客さまセンター

（フリーコール）	0120-922-229
（IP 電話などのお客様）	052-223-0333
NEXCO 中日本ホームページ	http://www.c-nexco.co.jp/

NEXCO 西日本 お客さまセンター

（フリーコール）	0120-924-863
（フリーコールがご利用できないお客様）	06-6876-9031
NEXCO 西日本ホームページ	http://www.w-nexco.co.jp/

首都高 お客様センター 03-6667-5855
首都高ホームページ http://www.shutoko.jp/

※故障車や落下物など高速道路で異常を見つけたら道路緊急ダイヤル「#9910」へ（固定電話・携帯電話・PHS・公衆電話からつながります）

路上故障などの緊急時には…JAFロードサービス救援コール

ナビダイヤル　0570-00-8139

※ 通話料は有料（固定電話は10 円/ 分、携帯電話は10 円/20 秒）。
ただし、一部のＩＰ電話等からはご利用になれません。

または、短縮ダイヤル　#8139

※ 通話料は有料。
ただし、固定電話（ダイヤル回線）および一部のIP 電話等からはご利用になれません。

ナビダイヤルおよび短縮ダイヤルがご利用になれない場合は、下記通常電話番号をご利用ください。通話料は有料です。

北海道地区救援コール	(011)857-8139	
東北地区救援コール	(022)237-0110	青森・岩手・宮城・福島・秋田・山形
関東地区救援コール	(03)5730-0111	新潟・長野・茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
中部地区救援コール	(052)889-5300	富山・石川・福井・岐阜・静岡・愛知・三重
関西地区救援コール	(072)645-0111	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国地区救援コール	(082)272-4949	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国地区救援コール	(087)868-0111	徳島・香川・愛媛・高知
九州地区救援コール	(092)841-5000	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

（2015 年 8 月現在）

※ GPS 対応の携帯電話や携帯メールからの救援依頼は、JAF 携帯サイト（http://jafmbl.jp/）またはQR コードへアクセスしてください。
PC メールやFAX からの救援依頼は、JAF ホームページ（http://www.jaf.or.jp/）の「救援コール」をご覧ください。